

【英語】

近畿後期の英語は前期に比較して非常に簡単であるため、ケアレスミスや思い込みによるミスを防ぐことが大切である。高得点必至の問題であるため、差がつく所を落とさないことだと思う。

昨年と言えば比較構文の as-as を節で比較したIV番の C とか D の名詞節の中に完了形を入れて lead A to do でつなぐ整序問題などだろう。前期の問題との差が大きいため、「ミスをゼロにする神経消耗戦」のようなものではないだろうか？ 時間は十分余ると思う。

昨年の問題を見ても「これでどうやって差がつくのだろうか？」と思う位である。センター試験のようにすぐに慣れてくる問題形式であるため、精神的動揺や焦りや思い込みのような精神の安定の方がむしろ重要ではないかと思う。

「ミスはできない」というプレッシャーを最大限に抑えることに勝算が発生するような気がする。がんばって欲しい。

【化学】

近畿後期は、前期とは様式が異なっているため注意が必要である。まず、無機物質の性質がよく出題されるので無機化学のみならず、化学基礎内容の物質の性質（意外にここが盲点になり易い）をチェックしておくとう有効であろう。例えば同素体、固体の結晶（硬度、融点等）、有毒物質、揮発性物質などである。

理論に目を向けると溶解度、溶解度積、沸点・凝固点が要注意であると思われる。ここでは計算を手早くすることを心がけたい。

有機は脂肪族、芳香族の混合問題であろう。複雑な化学反応式の出題はないと考えられるので確実に得点したい。準備としてはやはり、物質一つ一つの性質をチェックしておくこと。これに尽きる。

【生物】

昨年度の近大後期は「細胞融合・遺伝子組換え」「DNA 計算」「遺伝」「光合成」といった、ここ数年の頻出分野が一堂に会したような出題だった。この中で、新課程で多少影の薄くなった「遺伝」を除き、バイオテクノロジーや代謝は今年度においても最重要分野となる可能性が高い。

その他、以下の三点も要注意である。

- ① 医学部以外の前期試験の動向も考え合わせると、新課程の内容であっても出題される可能性がある。たとえ正解とは無関係であっても、選択肢の吟味に重要であったりするので、旧課程履修者であってもできれば一度目を通しておくこと。
- ② この5、6年は「生態系」「進化」「分類」は出題されていないので、時間がない場合は特別な対策を講じる必要はない。ただし出題範囲には含まれているので、一応注意のこと。
- ③ 農学部などとの共通問題なので、どうしても植物関連の話題(光合成など)は頻出テーマとなる。その意味では、遺伝の計算についても基本程度はチェックしておくこと。

そこで予想としては

- ・細胞骨格
- ・被子植物の重複受精や減数分裂
- ・形態形成(ホメオティック遺伝子など)や中胚葉誘導
- ・遺伝子の転写調節
- ・目や耳のつくりと働き
- ・筋収縮のしくみ
- ・腎臓や尿計算
- ・植物ホルモンや光受容体(フォトリピンなど)、フロリゲン
- ・光合成(計算)や窒素同化などが挙げられる。

以上に留意して、残されたチャンスをぜひモノにして欲しい。
健闘を祈る。